

第6学年 社会科 学習指導案

1. 小単元名『幕府の政治と人々のくらし』

(教科書：『小学社会 6 上』 p. 64～74／学習指導要領：内容（1）オ）

2. 小単元の目標

- (1) 家光による大名統制や民衆支配、鎖国などの改革について調べ、武士を中心とした身分制度が確立し、江戸幕府の政治が安定したことを理解する。
- (2) 年表や絵など各種資料を活用して、歴史的事象について必要な情報を調べたり、調べて考えたことをわかりやすく表現したりすることができる。

3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
家光が、どのようにして全国を支配するしくみを整えていったのか関心をもち、意欲的に調べようとしている。	家光による鎖国政策の目的について、背景になった出来事と関連づけて考えている。 江戸幕府による政治が安定した要因について、家光が行った大名統制や鎖国政策、身分制度のしくみを総合して考え、まとめている。	家光による大名や民衆の支配の様子について、想像図や地図、文章資料を活用して調べている。 鎖国政策のもとでの外国との交流の様子について、絵図や文章資料から調べ、日本と外国との関係についてまとめている。	家光が、大名や人々をどのようなしくみで支配したかを理解している。 家光による鎖国政策や鎖国政策の中での外国との交流の様子を理解している。

4. 指導にあたって

(1) 児童の実態

学級内には歴史への関心や知識に大きな差が見られ、それが授業参加への意欲に表れている傾向がある。関心や知識のある一部の児童の発言だけで授業が進んでいかなないように手立てを講じたい。具体的には、歴史的事象に初めて出会う児童が多いことを考慮し、想像図や写真など視覚的に読み取れる資料を多く活用したり、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにしたり、調べる時間をしっかり確保したりする。さらに、ペアやグループで話し合う活動を取り入れることで、児童の発言を促すことができると考えられるため、意図的に取り入れていき、全ての児童が自分の考えを話す経験を積ませたい。

(2) 教材について

織田信長や豊臣秀吉の活躍により群雄割拠の世の中が統一され、徳川家康により新しい政治体制

である江戸幕府が始められたあと、家光のはたらきにより武士を中心とする身分制度が確立し、江戸幕府の政治が安定したことがわかるようにすることをねらいとしている。具体的には、家光による「大名統制」「身分制度」「鎖国」にかかわる政策を調べていくことで、江戸幕府の政治が安定したことを理解できるようにする。例えば、家光は参勤交代を制度化し、大名の力を弱めることで大名たちを支配していった。また、家光の時代に見られる百姓への御触書は、百姓たちの生活に規制をかけ、身分制度を確立させることにつながった。さらに家光は鎖国によりキリスト教を排除し、幕府が貿易利益を独占するしくみをつくった。これらの事象を追究することを通して、大名を抑えるしくみや武士を中心とした身分制度が確立し、江戸幕府による政治が安定したことを理解できるようにする。

指導にあたっては、大名行列や身分制度のもとでの人々のくらしの想像図、出島の絵図など家光の政策を視覚的に読み取れる資料を活用し、家光がどのように江戸幕府の基礎を築いていったのかイメージをふくらませながら、追究できるようにしたい。

(3) 指導上の工夫・留意点

①単元を貫く学習問題と学習計画をつくり、学習を進めていく。

単元の初めに、全国の4分の1の領土しかない江戸幕府が、4分の3の領土を占める他の大名たちを260年間支配したという事実や、その支配体制を固めたのは家光であることをつかませて、「どうやって長い間全国を支配したのか？」という問題意識を高め、「家光はどのような政治を行って、江戸幕府が全国を支配するしくみを整えたのかな？」という単元を貫く学習問題を設定したい。そして、その学習問題を解決するために学習を進めていくことを伝え、児童とともに年表や教科書を概観しながら今後の学習計画を立てたい。単元を貫く学習問題は、毎時間黒板の隅に明示し、毎時の学習をその問題の解決へとつなげることを意識させる。学習計画は、単元の第1時にノートに書かせることで、学習への見通しをもたせる。単元の最後には、これまでの学習したことを関連づけたり総合させたりして、学習問題の答えを導き出させたい。

②徳川家光に焦点をあてて学習を進めていく。

江戸幕府の政治の様子や江戸時代の身分制度の確立について学習していく単元であるが、「江戸幕府は～」と江戸幕府を主語にして追究していくことは、児童にとって、その立場になって考えにくかったり共感的に理解しにくかったりする。そこで本小単元では、徳川家光に焦点をあて、家光の行った政策や政策の意図について追究していくようにする。家光の生い立ちや人柄がわかるようなエピソードを読み取らせるなどの活動も取り入れ、児童が江戸幕府による政治について意欲的に追究していくことができるようにしたい。

5. 小単元の指導計画（総時数6時間）

時	ねらい	○学習活動 ・ 内容	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
① (つかむ)	徳川家光により江戸幕府の長期にわたる全国支配のしくみが整えられたことに関心をもち、家光の行った政治について調べる意欲をもつ。	○全国の4分の1の領土しかもたない江戸幕府が、4分の3の領土を占める他の大名たちを260年以上の間支配したことを知り、問題意識をもつ。 ○江戸幕府による支配体制の基礎を固めたのは家光であることを知り、将軍になるまでのエピソードから家光の人柄や将軍になった頃の願いを想像する。 ・家光には優秀な弟がいたが、家康の意志により家督を継いだ。 家光は、長い間江戸幕府が全国を支配するために、どのような政治を行ったのかな。 ○学習問題を解決するために、家光による大名支配、民衆支配、対外政策の様子を調べていく学習計画をつくる。	◎大名の配置（地図） ◎幕府領と大名領の割合（グラフ） ◎家光が将軍になった時、大名に話したといわれる話の内容。「生まれながらの将軍」 ◆徳川家光が、どのようにして、全国を支配するしくみを整えていったかについて関心をもち、意欲的に調べようとしている。 (関・意・態／発言、ノート)
② (調べる・まとめる)	大名の配置や参勤交代の制度、武家諸法度について調べ、家光が大名の力を抑える政策を行ったことがわかる。	家光は、どのように大名を支配したのかな。 ○参勤交代の様子を知り、家光がどうして参勤交代をさせたのか考える。 ・参勤交代は大名にとって大きな負担だった。 ○江戸幕府による大名配置や大名のとりつぶしの様子を読み取る。 ・江戸幕府は、都合のよい大名配置をした。命令に従わない大名は、とりつぶすこともあった。 ○家光は、どのようにして大名たちを支配したのか考える。 ・大名の力を抑える政治を行った。	◎参勤交代の样子の絵図 ◎加賀藩の参勤交代に関する資料（参勤交代にかかった日数、支出） ◎武家諸法度 ◎大名の配置（地図） ◎大名のとりつぶしの数 ◆家光が大名の力を抑える政策を行い、大名たちを支配したことがわかる。 (知・理／ノート)

③ (調べる・まとめる)	身分制度のもとでの人々の生活の様子や家光の時代の百姓への生活規制について調べ、百姓が武士を支える身分制度が確立したことがわかる。	○江戸幕府による身分制度について調べる。 ・武士、百姓、町人、差別された人々などがいた。 ・百姓は人口の約85%を占めた。 家光は、どのように百姓を支配したのかな。 ○百姓のくらしの様子を調べる。 ・百姓は、年貢を納めなくてはならなかった。 ・百姓はお触書や五人組制度などで、生活を厳しく制限された。 ○家光は、どのようにして百姓たちを支配したのか考える。 ・百姓の生活を規制し、百姓が武士のくらしを支える身分制度をつくった。	◎身分ごとの人口の割合（グラフ） ◎年貢を納める人々の絵図（「七難七福図巻」の一部など） ◎百姓へのお触書 ◆家光の時代に百姓の生活を規制する政策が行われ、身分制度が確立したことがわかる。 (知・理／ノート)
④ (調べる・まとめる) 【本時】	家光による鎖国政策の目的について考え、キリスト教の排除や貿易統制が目的だったことがわかる。	○家康による外国との貿易の様子と家光による外国との貿易の様子を読み取る。 ・家康は、貿易を盛んにしたが、家光は貿易を制限した。 家光は、どうして鎖国をしたのかな。 ○家光による鎖国政策と当時の社会の出来事について知り、その関連について考える。 ・キリスト教信者が増えたため、キリスト教を広めないオランダや中国とだけ貿易することにした。 ○家光による鎖国政策の目的について話し合う。 ・キリスト教の排除や幕府による貿易独占が目的だった。	◎朱印船貿易を行っていたころの航路や日本町の分布図 ◎家光による鎖国令の文章 ◇鎖国令の文章は、児童にわかりやすい表現に直して示す。 ◎出島の絵図 ◎家光による鎖国政策と当時の社会の出来事がわかる年表 ◆家光による鎖国政策について、背景にあった社会の出来事と関連づけて考え、キリスト教の排除や貿易統制が目的だったことがわかる。 (思・判・表／ノート)

⑤ (調べる・まとめる)	江戸時代の近隣諸国との交流を調べ、鎖国政策のもとでも使節の行き来や交易を通じてつながりをもっていたことに気づくことができる。	鎖国の中で、外国とどのような交流が行われていたのかな。 ○鎖国政策のもとで行われた朝鮮や琉球王国、アイヌの人たちとの交流の様子を調べてまとめる。	◎朝鮮や琉球王国、アイヌの人たちとの交流の様子（絵図や文章資料） ◆鎖国政策のもとでの外国との交流の様子について、絵図や文章資料から調べ、日本と外国との関係についてまとめている。 (技／ノート、ワークシート)
⑥ (深める)	これまでの学習をもとに、家光の行った諸政策が江戸幕府の長期にわたる全国支配にどのようにつながったかを考え、表現することができる。	家光は、長い間江戸幕府が全国を支配するために、どのような政治を行ったのかな。 ○家光が行った諸政策を思い出す。 ○家光の行った諸政策が、江戸幕府の長期にわたる全国支配にどのようにつながったかを考え、まとめる。 ○家光の行った諸政策から、家光の願いを想像する。	◆江戸幕府による政治が安定した要因について、家光が行った大名統制や鎖国政策、身分制度のしくみを総合して考え、まとめている。 (思・判・表／ノート)

6. 本時の指導（第4時）

(1) 本時のねらい

徳川家光による鎖国政策について、政策と背景にあった出来事との関連を考えたり鎖国の目的を話し合ったりする活動を通して、キリスト教の排除や貿易統制が目的だったことを理解する。

(2) 本時の展開

時配	○学習活動 T：発問 C：児童の反応	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
10	○家康の頃の朱印船貿易の様子と、家光による貿易の制限の様子を読み取る。 T：家康の頃の外国との貿易の様子を見てみましょう。 【資料例】 朱印船貿易の航路や日本町の分布の様子 がわかる地図 ・様々な国と貿易。 ・大名や商人にも貿易を許可。 ・東南アジアには、日本人が 移り住んだ日本町ができた。 C：けっこう、外国と貿易している。 C：東南アジアの各地と貿易している。	◎朱印船貿易を行っていた頃の航路や日本町の分布図 ◎家光による鎖国令の文章 ◇テレビ画面や電子黒板に映すなどして、児童が資料に関心をもてるようにする。

	C：大名や商人も貿易していたんだね。 C：日本町って何だろう？ T：日本町は，貿易などで訪れた日本人が移り住んでできた町です。 T：家康は，外国との貿易を した。 T： には，どんな言葉を入れるといいですか。 C：進めた。 C：盛んにした。 T：次は，家光の頃の貿易の様子を見てみましょう。 【資料例】 出島の絵図 ・外国への行き来は死罪。 ・相手は，オランダ・中国だけ。 ・貿易は，長崎の出島だけ。幕府だけが貿易できた。 C：外国に行くと死罪って厳しすぎる！ C：どうして幕府だけが貿易したの？ C：どうして貿易相手はオランダや中国だけ？ T：家光は，外国との貿易を した。当てはまる言葉を考えましょう。 C：やめさせた。禁止した。 C：制限した。 T：家光による，様々な外国との交流の制限をまとめて鎖国といいます。 T：家康と家光の外国との貿易の様子を比べて，何か疑問に思うことはありませんか？ C：家光は，どうして外国へ行くと死罪にしたの？ C：家光は，どうしてオランダと中国とだけ貿易をしたの？ どうして貿易を制限したの？ 家光は，どうして鎖国をしたのかな。	
25	○家光による鎖国政策と社会の出来事を読み取る。 C：何か出来事が起こったのではないかな。 C：外国人と争いが起こったとか。 C：オランダと中国だけは，日本に味方したとか。 T：家光による鎖国政策と，その頃の出来事がわかる年表を見てみましょう。	◇「鎖国」という言葉を教える。 ◇疑問に思うことはないか，児童に発言を促し，それを集約する形で本時の学習課題をつくる。学習課題は，黒板に目立つように板書する。

【資料例】

社会の出来事	家光の鎖国政策(外国との交流の制限)
・大名や商人も許可証をもらって貿易し、利益を得た。(家康の頃) ・外国から来た宣教師がキリスト教を広めた。 ・外国に渡った日本人の中には、キリスト教徒になる人もいた。 キリスト教信者数の増加がわかる棒グラフ 1637 島原・天草一揆→キリスト教信者と農民が団結し、重い年貢やキリスト教の取りしまりに反対して一揆を起こす。幕府は、大軍を送ってようやくこれをおさえた。 島原の乱の絵図	1624 スペイン船の来航を禁止する。 1635 日本人の海外への渡航と海外からの帰国を禁止する。 1639 ポルトガル船の来航を禁止する。 1641 貿易相手を、キリスト教を広めないオランダと中国だけに制限する。 外国の情報や貿易の利益は、幕府だけが独占するようになった。

C：外国と貿易をした頃、 どんどんキリスト教徒の数が増えていっている。

C：キリスト教徒と農民が団結した一揆が起こったんだね。

C：鎖国は、キリスト教と関係がありそうだ。

○鎖国政策と背景にあった出来事との関連を考える。

T：「出来事」と「家光の鎖国政策」で関係していると思う部分を見つけて、線や矢印で結びましょう。

C：外国から来た宣教師がキリスト教を広めたから、スペインやポルトガル船の来航を禁止したのではないかな。矢印で結ぼう。

C：島原・天草一揆と、貿易相手をオランダや中国に制限したことはつながっていると思う。線でつなごう。キリスト教徒が団結した一揆が起こったから、キリスト教を広めない国とだけ貿易をすることにしたんだと思う。

C：家康の時代は大名や商人が貿易をできたけど、家光の時代は幕府だけが貿易を独占するようになったんだね。この二つも関係していると思う。

T：線や矢印でつないだことをもとに、家光が鎖国をした

◎家光による鎖国政策と、その頃の社会での出来事を対比した形で表した年表

◇資料は、「社会の出来事」を青で囲み、「家光の鎖国政策」を赤で囲むなど、わかりやすく表示する。

◇5分程度、各自で考えたあと、必要に応じて近くの友達と交流してよいことを伝える。

◇机間巡視で「出来事」と「政策」のつながりを見つけられない児童を探し、必要に応じてヒントとなる部分を助言する。

◇一つの出来事から、いくつかの部分に線や矢印をつないでもよいことを伝える。

	理由を考えてみましょう。「家光は、(出来事)から、(政策)した。」という一文でまとめましょう。 C: 家光は、外国から来た宣教師がキリスト教を広めたから、スペイン船の来航を禁止した。 C: 家光は、島原・天草一揆が起こったから、キリスト教を広めないオランダと中国だけに貿易相手を制限した。 C: 家光は、大名や商人が貿易で利益を得ていたから、幕府だけが貿易を独占するしくみにした。 ○家光による鎖国政策の目的を話し合う。 T: 外国との貿易を制限した家光の鎖国政策の目的は何だったのでしょうか。 C: キリスト教が広まらないようにすること。 C: キリスト教信者をなくし、幕府に反抗する者をなくすること。 C: 幕府が貿易を独占し、幕府の支配力を強めようとしたと思う。	◇黒板に、「家光は、(出来事)から、(政策)した。」とまとめの文型を示す。「出来事」の字は青、「政策」の字は赤にするなど、年表の色と対応させ、児童が指示を理解しやすいようにする。 ◇個人でノートに記述するよう指示する。 ◇箇条書きで、複数書いてもよいことを伝える。 ◆家光の鎖国政策について、背景となった出来事と関連づけて記述している。 (思・判・表／ノート)
10	○教師が調べた鎖国の目的を知り、自分たちの考えたことと比べる。 T: 資料をもとによく考えましたね。今日の学習にかかわる内容について、先生も違う資料で調べてきました。みなさんが考えたことと比べてみましょう。 【提示する資料例】 鎖国政策には、次のような目的があったようです。 ・キリスト教を禁止し、キリスト教信者を根絶する。 ・外国との貿易を他の大名にさせず、幕府が独占する。 C: 私たちが考えたことと似ている。 T: 他の大名に貿易をさせず、幕府が貿易を独占することで、幕府は多くの財力を得たようです。また、家光の政治によって、キリスト教信者は激減します。でも、隠れてキリスト教を信仰し続ける人もいたようです。 ○学習のまとめをする。 T: 学習のまとめをしましょう。「家光は、どうして鎖国をしたのか」を、学習を生かしてノートにまとめましょう。 C: 家光は、キリスト教徒をなくしたり、幕府が貿易の利益を独占したりするために、鎖国をした。	◇教師が調べた内容は、テレビ画面や電子黒板に映すなどして確認させる。 ◆家光による鎖国政策の目的について、「キリスト教の排除」や「幕府による貿易の独占」に触れて記述している。 (思・判・表／ノート)